

平成28年度 岩美高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

岩美郡唯一、県最東部にある岩美高校は普通学科のみの設置ではあるが、2年次から3つの類型（進学、観光・スポーツ、福祉）を設け、生徒の進路実現に向けて一人ひとりを大切にされた教育が行われている。「生徒指導を教育活動の土台」としながら、小規模校（各学年3学級）ならではのさまざまな活動を実践している。学習指導においては、生徒の基礎学力の向上や四年制大学への進学も視野に入れ、これまで十分に理解できなかった内容の学び直しを目的とした「リスタート学習」や同校独自の学力検定「イワッツ検定」、また、放課後や長期休業中には数多くの補習授業を実施している。生徒指導においては、生徒の登校時、管理職も含め積極的に教職員が生徒を出迎えて声かけをし、生徒一人ひとりを見守っている。学級経営においても、担任のほか副担任と学年付の教職員も加え、複数の目で小さな変化も見逃さない姿勢で生徒を支援している。指導の効果もあって、校内の規律（あいさつや授業態度は良好、いじめや不登校、中途退学の問題もほとんどない）は非常に良い。部活動も非常に盛んで、全員加入を原則とし、管理職も関わりながら指導を継続している。また、近隣の山陰海岸ジオパークを活用し、地域における学びの充実を図っているほか、普通学科でありながら全生徒がインターンシップに参加し、キャリア教育の充実が図られ、生徒の進路決定は100%である。

現状に満足することなく、教職員みな、そして、地域も巻き込みながら、どのような学校であるべきなのか、「めざす学校像」を構築し、共有していく必要がある。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 「リスタート学習」など、中学校時代も含め、生徒が今までわからなかった部分を再び学べる機会を用意し、理解させることで生徒がわかる喜びを感じられる取組が行われていることは評価に値する。単なる基礎学力の向上（テストの点数の上昇）や上級学校受験のためだけではなく、生徒の将来につながる学力の着実な形成を望む。
- ② 5年連続進路決定100%という実績そのものは、高い評価に値する。一人ひとりの意思を大切に、上位の目標に果敢にチャレンジするよう指導を行っている。生徒がより主体的・積極的に自分の進路を考え、キャリアを選択できるより一層の能力育成を望む。進路指導部や3学年の担任団のみならず、全校挙げて進路指導に従事する体制は維持されたい。
- ③ 「生徒指導が教育活動の土台」という指導方針は、規律ある落ち着いた学校生活を成り立たせるために不可欠なものとなっている。生徒を締め付けるものではなく、「多様な生徒に対して、一人ひとりが大切にされていると実感させる」という重点目標の一つにもなっており、継続されることを望む。
- ④ いわゆる教室での座学だけではなく、インターンシップの全員参加や地域に出向いて地域の人たちから学ぶ体験学習、また、数多くの外部人材を学校に招聘するなど多様な学びの提供は、継続・発展されたい。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学校の将来ビジョンについて、管理職のリーダーシップのもと、地域も巻き込みながら教職員はじめ関係者間で議論し、教育活動が何のために、どこに向かっているのか、共有する必要がある。
- ② 授業におけるさまざまな工夫（少人数指導、授業のユニバーサルデザイン化、アクティブ・ラーニング等）が、学校全体のうねりにない部分もある。教科の特性をいかにしながら教職員間で共通理解し、一部の教職員の取組に留まらない手立てを考える必要がある。
- ③ 校内組織の編成やあり方を見直す必要がある。各分掌は教育目標のどの部分を実現するのか、教職員の役割分担に終始せず、経営的発想に基づく組織デザインを構築されたい。また、授業改善や教職員の力量形成にかかわる研究・研修部門の位置付けを明確にされたい。
- ④ 生徒アンケートの改善が必要である。特に結果の分析・活用方法を見直されたい。生徒からの“声”が一人ひとりの教職員の問題として、当事者意識を持って受け止められるよう、教職員へのフィードバックの方法を改善されたい。